

第4節 健やかで心豊かに暮らせるまち

4 青少年育成

～青少年が健全に成長・発達しているまち

<基本計画の目標>

青少年の地域との連携を深めるため、青少年団体に対する活動を支援し、指導者の育成を図ります。あわせて、地域活動やボランティア活動への参加を支援します。

家庭、学校や地域と連携する中で青少年の健全な育成を図ります。

安心できる環境の中で子どもたちが遊びや生活を通して自主性をはぐくみ、社会性を身につけられるよう支援します。家庭、学校、地域などでの青少年を取り巻くさまざまな問題に対応するために、相談指導体制の充実と非行防止に努めます。

<目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

市民満足度	当初値	H18 実績	H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 目標値	H22 実績	H23 実績	H27 目標値
「鎌倉市は、目立った非行問題などがなく、青少年が健全に成長・発達しているまち」だと感じている市民の割合	64.1%	62.7%	66.2%	70.7%	70.9%	67.0%	68.3%	65.2%	69.0%

<6年間の取組の評価>

【こどもみらい部】

青少年活動の推進、青少年指導・相談体制の充実については、子ども・若者育成支援推進法の施行後、努力義務であった子ども・若者育成プランを策定し、青少年の健全育成に向け計画的に取り組んでいます。また、青少年育成施設の充実については、青少年会館の月曜開館を実施しました。子どもの家については、1小学校区に1施設の整備目標を達成しました。今後は更に増加する利用希望者の受け入れ、学校からの距離、老朽化への対応が課題となります。

<今後の方向性>

【こどもみらい部】

子ども・若者育成プランに基づき、特に重要な取組を中心に推進していくとともに、公共施設再編整備計画と合わせて、青少年育成施設の整備を進めていきます。

鎌倉市民評価委員会の評価

《この分野の6年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見》

- ・市民満足度が目標値を上下しており、市民の満足がほぼ得られているものと受取れる。
- ・昨今の青少年育成の状況や国の方針をふまえて、「子ども・若者育成プラン」を策定した。しかし、それらの実施状況や効果が確認できないなど、進捗管理が十分に進んでいない。取組は緒に着いたばかりで、今後、同プランの実現に向けた取組に期待したい。
- ・子ども会館・子どもの家、青少年会館等、子ども・若者の安全な居場所を提供しているとともに、鎌倉らしい青少年育成の仕組みの充実に向けて活動している。特に、子ども会館や子どもの家は、鎌倉市の独自の児童館に代わる取組で注目できるが、利用者が両親のニーズと合わず低迷しているといった点から質や内容の再検討が必要であろう。
- ・学童保育の対象児童が増加している点が課題であり、学童保育の位置づけの検討も含めて、次期基本計画に期待する。

評価の内訳(委員数)						⇒	評価委員会の評価
◎	0	○	8	△	0		○

《将来のまちづくりの展望に向けたこの分野に関する意見》

- ・今後「鎌倉市子ども・若者育成プラン」に基づき、具体的な取組が行われることが期待される。
- ・共働き家庭の増加及びパートタイマーの増加に伴い、学童保育の対象となる子どもが増加傾向にあり、対応の充実が求められている。しかし、その一方で、施設としてのキャパシティを上回っている問題がある。
- ・子どもの家や青少年会館が子どもの居場所としてあるが、地域の行政センターや図書館なども子どもが過ごし易い場所である。地域の大人が目届く範囲で、放課後の子どもたちを見守るようにできると良いと思う。
- ・非行成年の溜り場とならないよう、まちづくりに十分な配慮が必要である。防犯テレビの設置も効果がある。
- ・施設複合化の観点から、青少年会館などは施設再編計画の中で検討されるべきである。
- ・相談体制や場づくりのみならず、家庭、学校、地域に対して、より積極的な関わりをしていく必要がある。
- ・健全な青少年の育成を軸としながらも、困難を抱える若者たちへの支援も欠かせなく、この分野がどのように教育機関と連携できるかも重要なポイントである。
- ・以下の2つの観点でこの分野をしっかり進めてほしい。
 - ① これからの鎌倉や日本を支える人材を育成する。
 - ② 困難に直面する子ども・若者を支援する。

《この分野に関する総括意見》

- ・青少年の健全な発達に欠かせないものに家庭の温もり、地域社会の見守りがある。
- ・学童期や青年期は社会へ出て行く準備期間であり、家庭や地域で育んでいく必要があり、青少年の育成は市がやるのではなく、地域や家族が行うものである。鎌倉市という地域の住民や教育機関、NPO団体などと連携しながら推進し、青少年が自ら成長できる活動拠点を充実させることも必要である。市は、青少年の居場所づくり、子どもが安心して過ごせる居場所づくりが大事な施策として、その場所を提供するという方向性で、今後も継続してほしい。ただし、運営に当たって、地域に具体的に、どう関わってもらうかは課題である。
- ・学校教育、生涯学習、地域福祉等の分野との密接な連携方法を具体的に検討し、一体的に進めて頂きたい。
- ・本分野は子ども会館、子どもの家に関する記載が多く、子育て支援との区別が付かない。そもそも切り離して考えにくいものなので、「子育て支援」「学校教育」「青少年育成」は「次世代育成」として一つにまとめても良い。
- ・青少年から学童保育を切り離し、青少年の居場所づくり、支援体制の充実、子ども・若者による社会参画の3つの柱で進める。